

村 長	副村長	課 長	係 長	課 員	担 当

報 告 書

項 目 谷地地区「みらいトーク！」実施報告書

日 時 令和8年7月7日（火）18時30分～20時00分

場 所 谷地集会所

事 務 局 総務企画課長、企画係長、穴戸、大内、佐藤（路）

出 席 者 5名

1 目的

令和9年度から始まる第6次総合振興計画の策定に向け、谷地地区の現状や将来への不安、残したいもの、10年後に向けて必要な取組等について意見を聴取するため、谷地地区「みらいトーク！」を実施した。

2 実施概要

はじめに、村から第6次総合振興計画の策定趣旨や計画骨子の考え方について説明した。その後、参加者及び村職員が自己紹介を行い、地区との関わりや日頃感じていることを共有した。

意見交換では、谷地地区のビジョンマップを活用しながら、残したいもの、大切にしたいもの、心配なこと、今後あったらよいものなどについて話し合った。また、付箋を用いて意見を出し合い、地図上の場所や地区全体の課題・希望と結び付けながら整理した。

3 主な意見

（1）人口減少・世帯継承への不安

人口減少や世帯継承に対する不安が共有された。子どもが独立して村外に出ている世帯や、将来的に家を継ぐ人がいない世帯もあり、今後、空き家が増えるのではないかと懸念が出された。

また、年齢を重ねるにつれて、雪片付けなど日常生活の負担が大きくなることへの不安も挙げられた。

（２）農地・地域組織の維持

田んぼを耕作する人が少なくなっており、農地や水路等に関わる地域組織の役員を担える人が限られているとの意見があった。

地区内の農地を地区外の人が借りて耕作している場合もあり、今後は、地区内に住む人だけでなく、農地を借りている人や関係者も含めた役割分担を検討する必要がある。

（３）空き家・空き地への対応

地区内には、老朽化が進んでいる家屋や小屋があり、今後さらに空き家が増える可能性があるとの意見が出された。

空き家になってからでは対応が難しく、所有者の高齢化や相続、建物の老朽化が進むと、活用や管理がさらに難しくなる。空き家になる前の段階から、所有者の意向把握、管理、活用、解体等の選択肢を整理する必要がある。

（４）自然・農・暮らしの魅力

谷地地区の魅力として、静かな環境、川辺、田園風景、自然の近さなどが挙げられた。昔から親しまれてきた川辺や、魚釣り、子どもの遊び場としての記憶が残る場所も話題となった。

また、ホタルについても意見が出され、川の整備と自然環境の保全のバランスが重要であることが共有された。

（５）買い物・移動販売への将来的なニーズ

現時点では、各世帯に車で移動できる人がいる場合も多く、買い物の課題は大きく表れにくい。一方で、今後数年のうちに、買い物に困る世帯が増える可能性があるとの意見が出された。

過去には移動販売が来ていたこともあり、今後は高齢化を見据え、移動販売や買い物支援のニーズを把握

し、必要に応じて周知や利用促進を行うことが考えられる。

（６）地域行事・交流のきっかけ

過去に行われていたビアガーデン、夏祭り、盆踊り、ソフトボール、子ども会行事、流しそうめんなど、地域で人が集まる行事について多くの話が出された。

お盆の時期には帰省者が戻るため、小さな夏祭りやビアガーデンのような取組があれば、地区の人や帰省者が集まるきっかけになるとの意見があった。一方で、準備の負担や担い手の確保が課題であり、無理なく続けられる形で検討する必要がある。

（７）子ども・教育・農業体験

子どもの数が減少していることについては、学校行事や部活動、集団での活動の面で課題がある一方、小規模校ならではの良さも共有された。

教育については、農業や地域資源と結び付ける可能性が話題となった。田植えや草取り、食事を組み合わせた農業体験など、農業を単なる作業ではなく、学びや交流の機会として生かすことが考えられる。

４ 総合振興計画への反映に向けた視点

- ・農地、水路、地域組織を持続可能にする役割分担の見直し
- ・空き家になる前から相談、活用、管理を考える仕組みづくり
- ・川辺、ホタル、田園風景など、地域資源の保全と見える化
- ・夏祭りやビアガーデンなど、負担の少ない交流行事の再構築
- ・若い世代、帰省者、移住者が地域に関わるきっかけづくり
- ・農業体験や地域学習を通じた、子どもと地域のつながりづくり
- ・高齢化を見据えた買い物支援、移動販売の利用促進

5 まとめ

今回の対話では、人口減少、高齢化、世帯継承、農地・地域組織の維持、空き家の増加など、谷地地区で暮らし続けるうえでの課題が共有された。

一方で、川辺、ホタル、田園風景、静かな住環境、農業のある暮らし、過去の夏祭りや無尽など、地域の中にある価値やつながりの記憶も確認された。

今後は、こうした地域資源を大切にしながら、農地や水路を守る仕組み、空き家への早めの対応、無理なく続けられる交流行事、農業体験や地域学習、買い物支援などを組み合わせ、谷地地区で暮らし続けられる地域づくりにつなげていく必要がある。

以上